



学校だより

令和2年9月30日
国分寺市立第三小学校
校長 小林 卓
NO. 468

本当の幸せとは

副校長 前多 紀子

2学期がスタートしてちょうど1か月が経ちましたが、先月末、運動会に代わる「三小スポーツフェスティバル」が開催されました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、現在もいろいろと制約されることが多い生活であり、2学期の始業式では校長講話の中でも、「コロナウイルスのせいで何もできない」ではなく、「何が出来るかを考えながら学校生活をおくってほしい」と子供たちに話がありました。

そのような中で開催された「三小スポーツフェスティバル」ですが、保護者の皆様に子供たちの応援をしていただき、ありがとうございました。残暑が厳しく、WBGT（暑さ指数）の数値に一喜一憂しながら、短い練習期間の中、「今出来ること」を精一杯やりきった子供たちに大きな拍手を送りたいと思います。

さて、先日、国連児童基金（ユニセフ）の報告書「レポートカード16」が発表されました。

これによると日本の子供たちは生活満足度の低さや自殺率の高さから「精神的幸福度」が38か国中37位と最低レベルであることが明らかになりました。「身体的健康」では1位を獲得するなど経済的には恵まれているものの、学校のいじめや家庭内の不和などを理由に幸福を感じていない子供たちの実態が浮き彫りになりました。

子供たちの感じる「幸せ」とは何でしょうか。食べるものや着る物に困らない、住む家もある、これは確かに「幸せ」だと思いますが、私たちが感じる幸せは物理的なものだけではありません。

本当の幸せとは、自分の存在をすべて受け入れてもらえる居場所があることなのだと思います。「どんなあなたでもいいよ」「あなたがいてくれてよかった」そんなメッセージを子供たちに伝えるためには、私たち大人が心の余裕をもつことが大切です。学校にはいろいろな子供たちがいますが、全ての子供たちにとって、大部分の時間を過ごす学校が「夢見る場所、であってほしいと学校運営協議会の委員の方から貴重なご意見も頂戴しました。

そして一方、学校では子供たちが将来の夢を思い描き、いろいろな可能性に挑戦できるよう、基礎学力の確実な定着が必須です。

今年度から、本校では3年生を対象に「算数補習教室」を実施しています。算数習熟度別指導担当教員を中心に、非常勤教員や特別支援教室支援員、学生ボランティアの協力のもと、年間25回、3年生の30人が放課後、算数教室に集まり、それぞれの進度に合わせてプリント学習に取り組んでいます。先日、補習教室を覗きに行くと、ある男の子がプリントの半分までは終わらせたものの、途中で気持ちが途切れてしまい、後半部分が手付かずの状態です。そばで見守る教員はその子の気持ちが学習に向くのをじっと待っていました。一度、算数教室を離れ、しばらくして戻ると、同じように教員が温かく子供を見守っていました。後から話を聞くと、その子は頑張って一問解いてから下校したとのことでした。

つつい忙しくて待つことが難しい日々を送っていますが、これからも出来る限り子供たちに寄り添い、「勉強って楽しい！」「やれば私もできるんだ！」そんな気持ちをたくさん味わわせられるように、学校ができることを一つずつ確実に取り組んでまいります。



10月の主な予定 SC:スクールカウンセラー勤務日/SSW:スクールソーシャルワーカー勤務日

1	木	歯科検診 SSW SC	15	木	タンバリン集会 きょうだい学級交流会（1・6年） SC
3	土	土曜授業（公開なし）12：15 下校	16	金	読書週間（終）計測（3年）
5	月	全校朝会（放送）委員会 学校運営協議会 聴力検査（3年）算数補習教室（3年）	19	月	安全指導 月曜6時間 計測（2年） 三小人権週間（始）算数補習教室（3年）
6	火	聴力検査（2年）生活科見学（1年）	20	火	計測（1年）安全下校指導
7	水	三小タイム（1・6年） 研究会のため4時間授業（給食あり）	21	水	水6時程
8	木	薬物に関する指導（1年～4年） 聴力検査（1年） SC	22	木	生活科見学予備日（1年）SC
10	土	さくらキャンプ（DAY）	24	土	土曜授業（公開なし）12：00 下校 三小人権週間（終）
11	日	さくらキャンプ予備日	26	月	全校朝会（放送）6時間授業（4～6年） 算数補習教室（3年）
12	月	クラブ 算数補習教室（3年） 読書週間（始）計測（6年） きょうだい学級交流会（2・5年）	27	火	福祉体験点字（3年）
			28	水	水6時程
13	火	計測（5年） きょうだい学級交流会（3・4年）	29	木	耳鼻科検診 SC
14	水	水6時程 計測（4年）	30	金	セーフティ教室（5年） 通知表配布

※予告なしの避難訓練を実施します。

11月の主な予定

11月7日（土）土曜授業（公開なし）
 11月12日（木）就学時健康診断
 11月16日（月）～20日（金）学習発表会 児童鑑賞、保護者参観週間（放課後）
 11月21日（土）土曜授業 学習発表会保護者鑑賞（終）

いつも温かく見守っていただいています地域の方より、ご寄付 を頂戴しました。

《りんどうの花》

長野県人会の方より、素敵なりんどうの花を頂戴しました。青紫色のりんどうはとても高貴な雰囲気、見る人の心を和ませてくれています。子供たちもりんどうの花瓶の前で立ち止まって見入っていました。

《お琴》

横浜在住の和田様よりお琴を寄付して頂きました。大切に保管されていた楽器ですが、ぜひ学校へ寄付をしたいとお申し出を頂きました。

来年開催予定のオリンピックへ向け、日本の伝統楽器の一つである琴に慣れ親しみ、子供たちにはぜひ「日本のよさ」や「日本の伝統文化」を外国のお客様に自信をもって伝えられるようになってほしいと願っています。今後、学校でも和楽器に触れさせていく機会を積極的につくっていきたいと思います。



こすもす教室 1年生授業

第1学年担任 齋藤拓朗

分散登校が終わり、みんなで生活することにも慣れてきた6月の終わりに、1年生は「みんなが仲良く過ごすために大切なこと」を考える学習をしました。「こすもす教室」の教員と各クラスの担任が協力し、授業を行いました。

こすもす教室の位置やどんなことをしているのかなどの説明の後、こすもす教室の活動「スリーヒントクイズ」「ブラックボックス」を体験しました。

スリーヒントクイズでは、3つのヒントからどんな答えになるかを考えました。答えを聞いていくと、自分と同じことを考えた人もいるし、そうではない人もたくさんいることが分かりました。同じことを聞いても、聞く人が違えば考えることも違うということ学びました。

ブラックボックスでは、箱の中身を、ヒントだけで伝えるゲームをしました。相手に分かりやすく伝えるためには、「やさしく・くわしく・ひとりが話すこと」が大切であるということ学びました。

感じ方や考え方は人によって違うことや分かりやすい伝え方を学んだ今回の授業が、友達とより良い関係を築くためのきっかけになってくれればと願っています。

三小スポーツフェスティバル

体育的行事委員会 スポーツフェスティバル担当 島崎 慎吾

「運動会中止」これほどまでに子供たちに残念なことがあるでしょうか。私たちから様々なものを奪っていったコロナは、子供たちの最も大きな楽しみの一つさえも奪おうとしていたのです。連日ニュースでコロナ関連の内容を目にするたび、何とかならないものかと職員一同頭を悩ませていました。健康が最優先であることは揺るぎありません。しかし、感染のリスクに配慮した上で「子供たちが『楽しかった！』『頑張った！』と言える取組をしたい。」と試行錯誤したうえで今回の「三小スポーツフェスティバル」の実施となりました。運動会とは異なり、きょうだい学年のみでの実施や、運動会のような特別時程を組まない中での練習など、様々な制約の中で子供たちは練習に励んできました。そんな中でも一生懸命努力し、そして楽しむ姿を見て、子供たちのパワーに改めて驚かされました。子供たちの頑張りはいかがだったのでしょうか。運動会とは違う形ではありましたが、一人一人の努力の成果を発揮し、仲間と励まし合い、助け合うことで絆を深め、学級や学年の一体感を高める絶好の機会となりました。それぞれの学年が、幻となってしまった運動会へ様々な思いがあった中で、スポーツフェスティバルを実施できたことは、意義のある一歩だったのではないかと思います。

保護者の皆様には、平日にもかかわらずたくさんの方に観覧していただき、ありがとうございました。今回子供たちが味わった達成感を学校生活に生かし、さらに成長していけるように指導してまいります。



1年生表現運動



2年生表現運動



3年生短距離走



4年生表現運動



5年生短距離走



6年生表現運動



三小人権コラム

各教科分科会 授業者 佐向 顕子

9月9日(水)に6年2組で、音楽の研究授業が行われました。今回の授業は、自分で楽器を選択し、「ラバーズ・コンチェルト」という曲で、主旋律を担当する楽器の音を引き立たせるためにはどうするかを考える学習内容でした。

自分に自信をもてるようになるため、各自の好きな楽器で練習をし、演奏の工夫を考えた上で、グループで1枚の大きな楽譜に付箋を貼っていきます。自分の思いをグループ全体で受け入れ、時に話し合い、演奏に生かしながら聞き合い、グループ全体の演奏を創り上げていきます。

演奏が苦手な子に、仲間がリズム打ちをしてくれたり、テンポを変えてくれたり、お互いがかかわり合いながら演奏を創る姿がたくさんありました。自分の演奏と思い、友達の演奏や手助け、それぞれが絡み合った時、「自分に自信をもつ」「他者を受け入れる」意識が培われるのだろうと考え、これからも授業を創り上げ、子供たちの内面を育てていきます。



特別活動分科会 授業者 小倉 さえ子

9月9日(水)に、5年2組で学級活動の研究授業が行われました。話し合い活動(学級会)で、「2学期スタートのお楽しみ会を計画しよう」という議題でした。今まであまり話したことのない友達とも、もっと仲良くなりたいといった提案理由のもと、話し合いが進んでいきました。「〇〇さんの意見に賛成です。理由は～だからです。」や「〇〇さんの意見もいいんですけど、私は～の方がいいと思います。」のような、他者を思いやりながら自分の意見を言っていました。また、ほとんどの児童が賛成している意見に対して反対の意見が出た時には、改善策をクラスみんなで一生懸命に考えることができていました。今回は4回目の学級会でしたが、自分の考えとは違う考えも、しっかりと聞いて受け止め、一緒に考えられるようになってきて、大きく成長した姿を見ることができました。話し合いの中でどの児童も相手を思いやるという人権意識が高められてきていると実感できる話し合い活動でした。

